

平成 21 年 8 月 6 日

所長の高橋でございます。本日、私からは 2 点申し上げます。

まずは、「7号機の点検・評価の進捗状況」についてです。

7号機につきましては、プラント全体の機能試験の結果を国へ報告し、試験結果について安全上の問題はないことのご確認をいただきました。これを受け、当社は、7月3日に新潟県、柏崎市、刈羽村にその旨をご報告し、7月22日には営業運転へ移行することについて、ご確認をいただきました。

7号機は、その後も定格熱出力一定で調整運転を継続しておりましたが、7月23日に気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値がわずかに上昇していることが確認されたため、直ちに関連パラメータの監視強化等の対策を講じることといたしました。その後、翌24日に高感度オフガスモニタの指示値がさらに上昇したことから、燃料棒の被覆管に微小な孔が生じ極微量なガス状の放射性物質が原子炉水中に漏れ出たものと判断いたしました。なお、ガス状の放射性物質につきましては、気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタの指示値に変動は見られないことから、本事象による外部への放射能の影響はありません。

このため、7月24日よりプラント出力を約80万kWまで降下させ、安定した状態で制御棒を操作し、放射性物質が漏れ出た可能性のある燃料が装荷されている範囲を特定するための調査を実施いたしました。その結果、漏えい燃料の範囲を特定できたことから、7月29日に当該範囲の近傍にある制御棒5本を全挿入状態として、放射性物質の漏えいを抑制いたしました。また、漏えい燃料が発生した原因につきましては、燃料の設計・製造・運転に起因した要因および新潟県中越沖地震による影響ではなく、異物等が原因で偶発的に発生したものと推定しております。

これらの調査結果につきましては、7月30日に原子力安全・保安院ならびに地元自治体へ報告し、翌31日に漏えい燃料の特定および漏えいの抑制対策については妥当であることのご確認をいただいております。

これを受け、当発電所は、定格熱出力到達時においても燃料からの放射性物質の漏えいが抑制されていることを確認するため、7月31日よりプラントの出力上昇操作を開始しており、昨日の午前1時30分に定格熱出力に到達いたしました。出力上昇は、漏えい燃料が装荷されている範囲の近傍にある制御棒5本を全挿入し、放射性物質の漏えいを抑制した状態で行っておりますが、今後、その状態を維持してプラントを運転できるか評価を行います。

当発電所といたしましては、今後も引き続き本事象の原因究明に努めるとともに、高感度オフガスモニタおよび関連パラメータの監視を強化しながら、安全を第一に慎重に運転を行ってまいります。

また、監視の中で異常が確認された場合や燃料被覆管の損傷の拡大が疑われる場合には、プラントの停止を含めた対応について検討いたします。なお、営業運転への移行につきましては、原子力安全・保安院ならびに新潟県技術委員会の評価・審議をいただき、検討してまいります。

2点目は、「耐震安全性に関する知見の拡充」についてです。

当発電所では、今後も知見の収集と反映に積極的に取り組み、安全・安心の更なる向上を図ることとしておりますが、既にお知らせしているとおり、当面は、発電所周辺の地形の形成過程、長岡平野西縁断層帯の活動性、建屋の変動、中越沖地震を踏まえた地震観測の4つをテーマに取り組んでまいります。なお、これらの検討内容につきましては、7号機の運転再開にあたって地元自治体からご要請いただいております4項目への対応状況の一つとして、7月3日に新潟県、柏崎市、刈羽村へ報告しております。

7月16日には、取り組み内容の具体的スケジュール等を補足して新潟県へ提出いたしました。これら4つのテーマにつきましては、今月より議論を開始し、今年度内に観測を開始する予定としております。また、地震観測記録等のデータや新たに得られた知見につきましては、安全性の更なる向上に活用していくとともに、適宜、その内容をご報告してまいります。

以 上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・ プレス公表(運転保守状況)

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成21年8月)

平成21年8月6日

## 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況								補足説明
			9	10	11	12	1	2	3	4	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 定検停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定検による停止								
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止								
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止								
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止								
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定検による停止								
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.5.24~	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第8回定検による停止								
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.11.15~H21.5.20 現在調整運転中	第7回 H18.8.23 ~ H19.1.11 停止期間 H18.8.23 ~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	第8回定検による停止								

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

### 発電所設備利用率(%) (7月末現在)

7月	15.2%
21年度累計	8.7%
運転開始後累計	67.5%

### 発電所発電電力量(万kWh) (7月末現在)

7月	93,100
21年度累計	208,762
運転開始後累計	80,400,599

### ドラム缶発生量(本) (H21年度第1四半期)

当期発生本数	934
貯蔵庫累積貯蔵本数	25,332
貯蔵庫保管容量	45,000

### 使用済燃料貯蔵体数(体) (H21年度第1四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,380
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

### 構内従業員データ(人) (8月3日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	838	2,971	39%
	刈羽村	86	317	4%
	その他	91	1,599	17%
	小計	1,015	4,887	61%
県外		140	3,701	39%
合計		1,155	8,588	-
		9,743		100%
協力企業社数(社)		997		

「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

### 来客情報(人) (7月末現在)

	7月	年度累計
地元	1,214	5,284
県内	1,644	5,864
県外	3,457	10,476
国外	73	147
合計	6,388	21,771

### 今後の主なスケジュール

予定日	内容
8月8・9日	ジュニアサイエンスアカデミー2009
8月21・22日	スイーツデコ教室 (柏崎エネルギーホール)
9月6日	とうでん 今・話・会 (柏崎市民プラザ 海のホール) 「SHINO 美腰でハッピーライフ 美容と健康エクササイズ」
9月10日	次回定例所長会見予定
9月24日	フラエクササイズ教室 (柏崎エネルギーホール)
9月24・25日	第136回名画鑑賞会 (柏崎エネルギーホール)

インターネットホームページアドレス  
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 広報部  
 0257-45-3131(代)

## プレス公表（運転保守状況） ～中越沖地震関連を除く～

平成21年 8月 6日  
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	7月15日	5号機	原子炉建屋屋上（非管理区域）におけるけが人の発生について（区分）	—
	7月23日	1号機	タービン建屋大物搬入口におけるけが人の発生について（区分）	—
	7月23日	7号機	気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇について（区分）	<p>（事象の発生状況） 当所7号機（改良型沸騰水型、定格出力135万6千キロワット）は、定格熱出力一定で調整運転中のところ、平成21年7月23日午後0時30分頃、気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値にわずかな上昇傾向が認められました。このため、記録を確認したところ、指示値が同日午前10時40分頃から上昇していることがわかりました。燃料棒からのガス状の放射性物質の漏えいの可能性も考えられるため、監視を強化することといたしました。</p> <p>その後、関連パラメータの監視強化を行いながら運転を継続しておりましたが、高感度オフガスモニタの指示値が上昇（7月24日午後3時現在で308cps）したことから、燃料棒の被覆管に微小な孔が発生し、ガス状の放射性物質が原子炉水中に漏れ出したものと判断しました。</p> <p>このため、7月24日午後5時からプラント出力を約80万kWまで降下させ、安定した状態で制御棒を操作し、放射性物質が漏れ出した可能性がある燃料集合体（以下、漏えい燃料）の位置の調査を行うことといたしました。</p> <p>なお、ガス状の放射性物質については気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタの指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（原因調査） プラント出力を約80万kWまで降下させた状態で、7月24日午後10時33分より出力抑制法により漏えい燃料が装荷されている範囲（以下、当該範囲）を特定するための調査を実施した結果、制御棒（58-51）およびその周辺の制御棒を操作した際の高感度オフガスモニタ指示値の変動が大きかったことから、漏えい燃料は制御棒（58-51）周辺にあることを特定いたしました。</p> <p>このため、7月29日に、当該範囲の近傍にある制御棒5本を全挿入状態として漏えい燃料からの放射性物質の漏えいを抑制しております。</p> <p>漏えい燃料が発生した原因について、燃料の設計段階から燃料の使用時の影響まで、それぞれの要因に分けて調査を行った結果、漏えい燃料が発生した原因は、設計・製造・運転に起因した要因および中越沖地震による影響ではなく、異物などが原因で偶発的に発生したものと推定いたしました。</p> <p>（対応状況） ・当該範囲の近傍にある制御棒5本を全挿入した状態で当該範囲の出力を抑制し、高感度オフガスモニタによる指示値の変動の監視などを行いながら、プラントの出力を定格熱出力まで上昇いたしました。 ・プラントの運転中は、高感度オフガスモニタおよび関連パラメータのデータ採取を毎日1時間に1回行うとともに、原子炉水や気体廃棄物の手分析の実施頻度を高めて、放射性物質の漏えいが抑制されていることを確認しております。 ・これらの監視の中で異常が確認された場合や、オフガスの発生状況から燃料被覆管の損傷度合いの拡大が疑われる場合には、プラントの停止を含めた対応について検討いたします。 ・次回定期検査時に、漏えい燃料の詳細な特定調査を行うとともに、漏えい燃料を原子炉外に取り出して詳細な点検を実施いたします。</p>